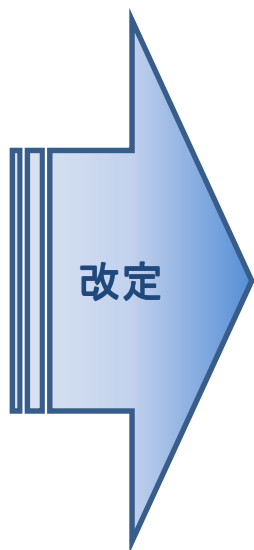
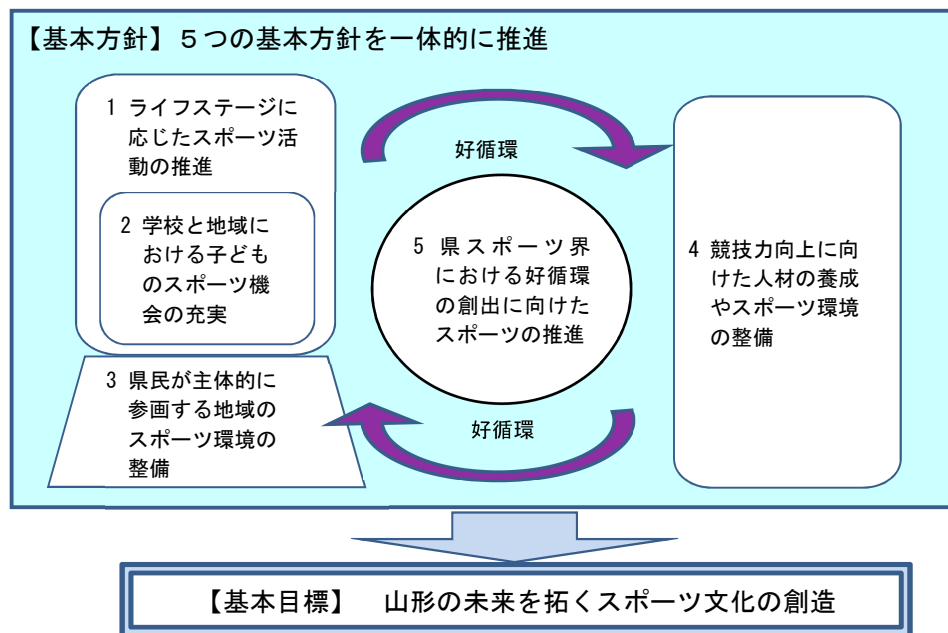


山形県スポーツ推進計画<後期改定計画> 概要版

1 山形県スポーツ推進計画(平成 25 年 3 月策定)

- (1) 位置付け スポーツ基本法第 10 条に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌して、地方の実情に即したスポーツの推進に関する目標や施策の方向性、具体的な施策を示すもの。
- (2) 対象期間 平成 25 年度からの 10 年間
- (3) 進行管理等 外部有識者で構成する山形県スポーツ推進審議会において事業効果などを検証するほか、計画後期(平成 30 年度からの 5 年間)の取組みについては、現状と課題の分析などを行い、改めて展開すべき施策を示す。
- (4) 計画骨子



2 改定の背景と新たな施策展開の必要性

- (1) 社会情勢の変化や国の動向(第 2 期スポーツ基本計画の策定/H29 から 5 年間)
 - ① 少子高齢化を伴う人口減少と地域コミュニティ機能(地域活動など)の弱体化、育児・介護との両立など多様なニーズへの対応
 - ② 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催と、その先を見据えた競技力向上と経済・地域活性化への取組み
- (2) 山形県スポーツ推進審議会からの意見(抜粋、H29 年 11 月開催)
 - ① 生涯にわたるスポーツライフの基礎となる幼児期からのスポーツ機会の提供
 - ② 総合型地域スポーツクラブを市町村事業で有効活用するための連携体制の構築
 - ③ 児童・生徒のスポーツ意欲向上のための“スポーツで笑顔をつくる取組み”の推進
 - ④ 地域力・組織力を活かした“山形のスポーツ”の普及拡大
 - ⑤ 地元企業等と連携してのアスリートの県内定着・回帰とスポーツ活動への参加・協力の促進

3 山形県スポーツ推進計画<後期改定計画>〔平成 30 年度からの 5 年間〕

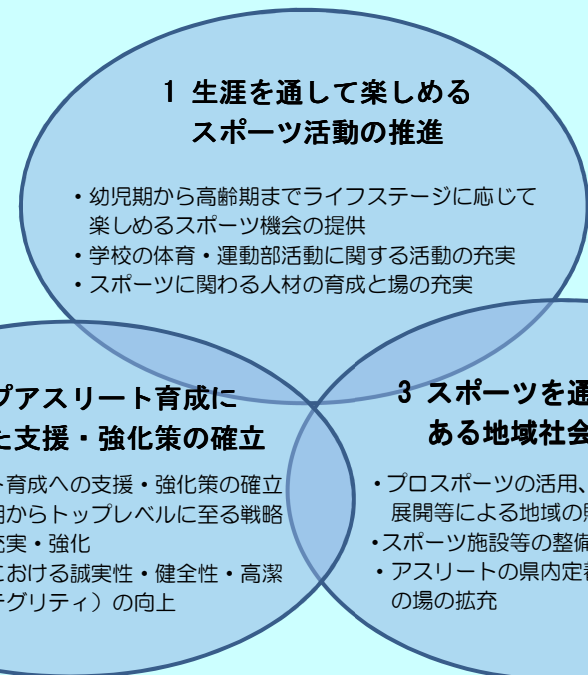
《改定のポイント》

- 誰もが生涯を通して楽しめる「する」「みる」「ささえる」スポーツ活動の一層の推進
- オリンピック・パラリンピックのメダリスト輩出に向けた支援・強化策の確立
- スポーツを通じた活力ある地域社会の実現

【基本方針】 3つの基本方針を連動させながら各施策を着実に実施



総合型地域スポーツクラブ活動の充実
幼児期からの親子ダンス教室



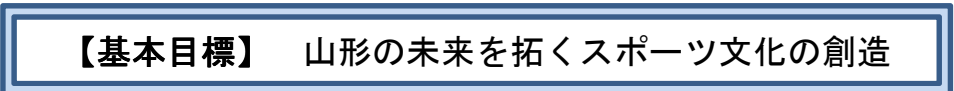
南東北総体 2017(インターハイ)での活躍の様子
(写真提供:山形新聞社)



2018 平昌冬季五輪での活躍期待
スピードスケート日本代表に選出された本県にゆかりのある4選手(写真提供:山形新聞社)



2020 東京五輪ホストタウンへの取組み
ブルガリア新体操チーム事前キャンプ(H29.6.14~28 村山市)



山形県スポーツ推進計画＜後期改定計画＞ 施策目標等

【基本目標】 山形の未来を拓くスポーツ文化の創造 ～「スポーツを通じた豊かな生活の実現」を目指して～

基本方針	施策目標	施策展開の方向	主な施策
1 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆成人の週1回以上のスポーツ実施率 ⇒60% (H28: 35.2%) 週3回以上のスポーツ実施率 ⇒30% (H28: 16.7%) ◆総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数【新規】 ⇒増加させる (H29 想定値: 21,300人) ◆子ども(小学生)のスポーツ実施率(1日60分以上)【新規】 ⇒60% (H29: 小学生男子 54.7%、女子 34.4%) ◆スポーツや運動が「嫌い」・「やや嫌い」である中学生を減らす【新規】 ⇒10%以下 (H29: 14.7%) 	1-1 幼児期から高齢期までライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフステージに応じたスポーツ活動の実態把握と楽しめる「する」「みる」「ささえる」スポーツ機会の充実 ○総合型地域スポーツクラブにおける事業展開の質的充実(放課後子ども教室や介護予防等の市町村との連携事業の展開) ○家庭、地域、幼稚園・保育園等の連携による子どもが楽しく運動する取組みの推進 ○障がい者スポーツの推進
		1-2 学校の体育・運動部活動に関する活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○体育・保健体育授業の充実 ○地域や関係団体との連携による運動部活動の充実 ○学校と家庭・地域の連携による「食育」の推進
		1-3 スポーツに関わる人材の育成と場の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ指導者等の育成とクリーンでフェアな活動の推進 ○スポーツボランティア活動の普及促進 ○学校体育施設やショッピングセンター広場等の有効活用
2 トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立	<ul style="list-style-type: none"> ◆オリンピック・パラリンピックでのメダリスト輩出【新規】 ◆国体の天皇杯順位 ⇒全国20位台 (H29: 31位) ◆インターハイ入賞数【新規】 ⇒夏季: 40以上、冬季: 15以上 (H29 夏季: 60、H29 冬季: 26) 	2-1 メダリスト育成への支援・強化策の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた重点的・集中的強化 ○スポーツ医・科学の選手・指導者への定着及び身近なサポート体制の構築(マルチサポートセンターの整備促進など)
		2-2 ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> ○「YAMAGATA ドリームキッズ」の発掘・育成及びジュニア期における一貫した指導体制の確立 ○南東北総体2017(インターハイ)を通して培われた高い競技レベルやノウハウの継承等による強化 ○トップアスリート育成に向けた優れた指導者の養成と確保
		2-3 スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性(インテグリティ)の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ団体のガバナンス強化と透明性の向上に向けた取組みの推進 ○ドーピング防止活動の推進



2020 東京五輪ホストタウンへの取組み
ブルガリア新体操チーム事前
キャンプ(H29.6.14~28 村山市)
(写真提供: 山形新聞社)